

差別を許さない子どもを 育てることはすべての人の課題

「第28回全国解放保育研究集会 2005・鳥取県人権・同和保育研究集会」が11月5日(土)から7日(月)まで鳥取県民体育館をメイン会場に開催されます。

鳥取市での開催が2回目となる今回の研究集会は、『部落差別をはじめあらゆる差別の現実を学び、解放保育を創造しよう』をテーマに、全国からおよそ3千人が参加する予定です。

同和地区保護者の熱い思いからスタート

同和保育の取り組みは、厳しい部落差別の現実を踏まえ、差別を許さず差別をなくしていく子どもを育てようとの、同和地区保護者の熱い思いからスタートしました。

その後、保育園と一緒に子育てをしたいという願いから設立された保護者会の取り組みにより、①乳幼児の成長の発達保障・母親の就労保障、②子どもの教育権の保障、③保育環境の整備などが大事な視点であることが見えてきました。

同和保育はすべての人の課題であり、取り組み

同和保育がめざすものは、部落差別を許さないということ

原点にしながら、反差別・人権の観点から、すべての人々がともに生きる社会をつくること、そのような社会を築くことのできる子どもを育てていくことです。

差別は、差別する側があつて存在します。私たち大人のもの考え方、とらえ方、価値観などの中に考えるべきものがあるのではないのでしょうか。みんなが意見を出し合い、力を合わせ連携して目の前の課題を解決していくということが、同和保育を進めていくうえでとても重要であり、すべての人の取り組みであるということ認識したいと思えます。そして現在、就学前教育の場



差別の現実から学ぶ

鳥取市では、1990年から5年ごとに保育所児童実態調査を行い、差別の現実が子どもたちにもどう表れているかを捉え、保育課題を明確にして、保育内容の創造や保育条件の整備に努めています。

子どもたちは日々の保育の中で育っていきます。保育や教育に携わる者は、日々子どもたちの姿から考えられる背景やその要因をしっかりと捉え、一人ひとりに応じた保育を展開しています。また、反差別・人権の視点に基づいた仲間づくりを集団保育の中で心がけています。また、保護者や地域、関係機関と話し合い、連携をとりながら子育てを行っています。そしてこのことが、反差別・人権の社会づくりにつながっていくのです。

差別をなくする子育てをみんなで考える

今回の研究集会は、1日目の記念行事で、「ふるさとを愛し誇りに思う子どもたち」と題し、鳥取市の同和保育の歩みを表現した演劇が始まり、また保育園の子どもたちの生き生きと活動するようすを映像で紹介されます。そして、保育園児たちがふるさとへの思いを込めて、鳥取しゃんしゃん傘踊りを披露し、大会のオープニングを飾る予定です。2日目には、「地域子育てネットワークづくり」、「乳児期からの保育・子育て」など、子育てに関する分科会が開催されます。市民のみなさんもこの研究集会に参加し、差別を許さず、差別をなくしていくことのできる子育てについて、ともに考えていきたいと思います。

問い合わせ先

市役所南庁舎児童家庭課
(0857) 20-3462